

ねじりはちまき

9月 白露 秋分の月になりました。
9月1日防災の日です。7日白露。二百十日は十日です。19日敬老の日。
22日秋分の日です。

9月は、暑さもおさまって、そろそろコスモスの花が咲きます。
コスモスはメキシコ原産で菊科の1年草です。
日本には、幕末から明治中期に渡来したといわれています。
日本の風土によくなじみ、明治末には全国で栽培されるようになりました。
9月から10月頃、6cm～10cm程の白、ピンク、紅などの花を咲かせます。
草丈の短いキバナコスモスは、夏に開花する別種です。

秋風に吹かれて、軽やかに揺れる姿は可憐で美しく、「秋桜」の異名がありますね。コスモス街道が目を楽しませてくれます。
こぼれ種で増えますが、台風に吹き倒されても、けな気に立ち上がる強さがあります。
コスモスの花が咲くと、暖かくはならないといわれています。

日増しに肌寒さが加わって参ります。
何卒、お体には十分ご自愛下さい。

幸田 常一(^^)



本宮市現場の事務所建設工事は完成し、無事にお引渡しをさせていただきました。郡山市の現場はもう少しかかりそうです。
また今月は、本宮市の現場で台所修繕工事、蔵の解体工事など
させていただいております。

「タテヤマ」

私のお世話になっているk市の山岳愛好会では、本年のメイン山行としてタテヤマ(立山とは雄山3003m大汝山・浄土山等の総称)登山が計画され、8月26日から8月28日までの2泊3日の日程で実施されました。この山行に参加して参りましたので、山行で感じたことなど記してみたいと思います。

8月26日の早朝k市を出発して、郡山ICから高速道に入り、東北道、磐越道、北陸道を走り抜け、立山駅でケーブルカーに乗り換え美女平駅に到着。その後ナナカマドなどが色付き始めた秋の高原(昨年10月初旬、磐梯山登山の時と同じ色)などの景色を楽しみながら、室道ターミナル(標高2450)に到着。その後、チングルマの可憐な穂と草紅葉(この辺りは森林限界を超えている)を眺めながら、石畳の登山道を15分程歩き、2泊のお世話になる室堂山荘(以下「山荘」)へ計画通りに到着しました。山荘は、普通の温泉宿と同じ設備(収容人数200人)。大きな風呂で疲れを洗い流した後、大食堂で室堂の秋景色を眺めながら夕食を摂る。明日の好天を祈念して全員で乾杯、生ビールの美味しいこと。

2日目、雨の朝を迎える。大食堂に備え付けのテレビの天気予報を気にしながら朝食を摂る。雨に備えての準備を整え、準備体操の後、雄山を目指して全員元気に出発。石とコンクリートで舗装をした登山道を登るが、極めて歩きにくい。1時間余りで一ノ越山荘に到着。山荘入口に標高2700mの大きな看板が立っていた。ここから3003mの雄山まで一直線の岩山の急登が続く。途中、雷鳥が2羽私共の前に現れたので写真に撮る。雷鳥には人に対する警戒心は無いようだ。

一ノ越山荘から、1時間30分程で雄山に到着。雄山神社で神主の御祓いを受けた後、山頂の祠に参拝して山頂神社前で記念写真を撮り、健脚者の大汝山組と、体力に自信のない者を中心に往路を下る下山組(私もこの組の中に入る)に分かれて行動。一ノ越へ下山の途中、雨の中で昼食となる。雨とガスの中(視界ゼロ)で昼食。山の上でしか味わえない体験。食後の休みも取らず下山開始。私は、一ノ越山荘あたりから足が纏れだし、(加齢に伴う筋力の低下が原因か)同行の皆さんに世話になりながら、室堂山荘に辿り着くことが出来ました。私共が到着して約2時間後に、大汝山組も全員疲れ切った様子で山荘に帰る。山荘帰着後、ゆっくりと風呂で疲れと汗を洗い流して夕食。相変わらずビールが旨い。

3日目、昨日の雨が信じられない程の上天気。全員で準備体操を行い、山荘を「室

堂展望台」目指して出発する。抜けるような青い空、足下には草紅葉が広がる室堂平、ミクリが池の青い色、その先に地獄谷から立ち上る白い噴気等、この世に極楽があるとすればこのような所ではないかと思う。

更に高度を上げて、第二展望台に到着。この展望台からは槍ヶ岳・穂高連峰など北アルプスの雄大な姿を指呼の間に眺めることが出来、身も心も洗われる。自然の有難さをしみじみ感じた次第です。

室堂ターミナルから全員元気で(私の足の纏れは全くない)、バス、ケーブルカーに乗り立山駅に到着。同駅で待っていた我々のチャーターしたバスに乗り換えて、計画には無かったが称名の滝を見学。称名川沿いの舗装道路をバスで廻りましたが、途中で車両通行禁止の表示。そこから1.5km舗装道路を歩き、ようやく称名が滝の展望台に到着。落差350m(落差では日本一とか)の滝はまさに見事の一語に尽きます。滝を見て神々しさを感じ、思わず心の中で合掌して滝を拝みました。自然の作り出す造形は、神秘的に満ちていると感じました。称名の滝を見学した後、往路を戻り、立山駅近くのホテルで昼食。ご飯が実に美味しい。昼食の後に、ホテルの温泉で疲れと汗を洗い流して往路を辿り、全員元気で同夜に無事k市に予定通り帰ることが出来ました。

このようにして、k市の山岳愛好会の今年のメイン山行が終わりましたが、この山行に参加出来て、長生きして本当によかったと痛感致しました。

ただ、雄山の帰りに足が纏れてしまい、纏れの原因は筋力の低下によるものと愚考しております。

仲間の皆様方に大変な心配をかけてしまい、申し訳がないと痛切に感じております。来年のことをいうと鬼に笑われるといわれておりますが、来年のメイン山行にも参加出来れば大変有難いと思う次第です。

ミニ国家について

今回は、「ミニ国家」について取り上げてみよう。ミニでありながら、なぜ国家として成り立っているのか、探してみたい。歴史的、地理的、政治的にいろいろ事情があると思われるが、特異な点があればその辺を紹介したい。

先ず「ツバル」について触れたい。南太平洋にツバルやキリバスという共和国があることを知ったのは、地球温暖化によって海面上昇（海水の熱膨張と雪氷の溶解による）が続けば将来国土が水没してしまう恐れがあるとの話を聞いてのことである。ここ20年間毎年数ミリずつの海面上昇が観測されているということだ。そのうちツバルはイギリス連邦に属し、人口は1万人にも満たないミニ国家である。国土は9つのサンゴ礁の島で構成されており、海拔は平均2mと低く、最高でも5mというのだ。こう海拔が低くは海面上昇の危機意識は相当のものであると思う。一方ツバルでは島が環礁ゆえに海水の湧出が度々あり、洪水にも悩まされているようだ。こういう国があることを忘れてはならないと思う。同じく海面上昇の影響が心配されるのが、キリバス（人口は10万人を超える）だ。昨年COP21（パリで開催）で同国の代表が地球温暖化に関する先進国の責任を追及する演説をテレビで見た。もちろん海面上昇についての強い懸念の表明であった。COP21では温暖化抑止について先進国と発展途上国の全体合意が得られ、パリ協定が締結されたのは何よりであった。

次はイタリアとの関係で3つのミニ国家があるのを紹介しよう。そのうち2つはローマ市内にある。バチカンとマルタ騎士団である。バチカンは国家名がバチカン市国といい、ローマ教皇庁によって統治され、統治者はローマ教皇であり、ご承知のようにキリスト教・カトリックの総本山である。世界最小の国家（国土面積が0.44km²、人口が千人未満）で、全体が世界遺産に登録されている。国土は教皇領である。バチカンを象徴する建造物はサン・ピエトロ寺院、バチカン宮殿、バチカン美術館である。宗教国家であるため国籍は聖職についている間だけ与えられる。軍事力は保持しないし、教皇の警護及び警察はスイスの傭兵によって治安が維持され、出入国管理も行われていない。174か国と外交関係にある。存立基盤は言うまでもなく厚い宗教的基盤に支えられている。

マルタ騎士団はキリスト教カトリックの騎士修道会である。12世紀、十字軍時代にパレスチナに発祥した聖ヨハネ騎士団が現在まで存続したもので、かつての領土であったロドス島やマルタ島を失って、現在は領土なき国家である。領土はないものの、歴史的経緯から主権実態を有するとして外交関係を承認しているところが94か国ある。日本やアメリカは承認していない。国連では国としてではなく、オブザーバーとしての扱いである。領土がないマルタ騎士団の本部はローマ市内のマルタ宮殿にある。そこはイタリア当局から治外法権を認められ、現在は軍事組織としてではなく、医療団体として慈善活動などを行っており、団員は1万人を超えるということである。また、イタリア軍の軍医部隊としても運用され、その辺が存立基盤になっているようだ。以上の2つは国家の常識からいうと、宗教的特権が絡んでいて、わかりにくいところがある。次にサンマリノについてみてみよう。サンマリノはイタリア半島の中東部にある共和制国家である。標高700mの山岳地にあり、全部イタリアに囲まれ、公用語もイタリア語である。世界で5番目に小さいミニ国家（国土は61km²、人口は3万人超）である。だが、共和政体の国家としては最も長い歴史をもつ国家なのである。なぜこのような国家が誕生したのか。その歴史を訪ねると、先ず1631年にローマ教皇から独立を承認されて共和国としてスタート、ナポレオン戦争後のウィーン会議（1815年）で独立が再確認され、イタリア独立戦争には軍隊を派遣し、統一されたイタリア王国との間に友好善隣条約を結んで、近代国家としての主権と独立を獲得した。それ以来イタリアとは密接な関係にある。実際にはイタリアの保護国に近い状態にあるといわれているが、もちろん独立した国家として国連に加盟している。驚くこと

に、二人の執政が半年交代で元首を務める制度になっている。また、人口が少ない中で、国民同士が顔見知りなので、裁判官については外国人に限るとしている点も変わっている。国家としての存立基盤はどうも観光資源にあるようだ。多くの外国人観光客が訪れ、それがドル箱で観光立国を可能としている。

次は領主の小規模な領土が苦節を経た後に維持、再生されたミニ国家を見てみよう。このタイプに属する国家としては、モナコ、リヒテンシュタインがある。このうちではモナコが知られているかと思う。モナコは正式にはモナコ公国という。立憲君主国のモナコを有名にしたのは、王妃として女優のグレースケリーが嫁いだことだろう。また、F1グランプリ開催地としても有名だ。モナコはどこにあるかという、フランスの地中海沿岸でイタリアとの国境近くだ。首都モナコそのままが全領土で、フランスに囲まれている。人口は3万人余りだ。世界で2番目に小さい国である。その代り、国民の所得はかなり高い方である。億万長者の金持ちも多い。外国から移住してくるのだ。実はモナコはタックス・ヘイブン（無税又は税金が安い）の国なのである。かつて主要産業としてカジノがあったが、今はさほどではないとのこと。いずれにしてもモナコは治安もよく、地中海のリゾート地として観光客も多い、豊かなミニ国家である。その歴史を辿ると、神聖ローマ皇帝から土地を与えられて1228年に今日の原型をなすモナコが建設されて以来、占領されたり、保護国になったり、いろいろ苦節を経ながら、たくましく再生を繰り返して今日を迎えているとのことである。ミニでありながら、国家を維持してきたことは驚くべきことである。モナコの次はリヒテンシュタインを見てみたい。リヒテンシュタインはどこにあるのか。西ヨーロッパの中央部に位置し、スイスとオーストリアに囲まれている。正式にはリヒテンシュタイン公国といい、立憲君主制国家である。リヒテンシュタイン家の当主が元首で、領土は日本の小豆島くらいで、人口は3万人余。1867年に永世中立国を宣言して、現在も非武装中立政策をとっている。百人余りの警察力をもつのみで、防衛は条約によりスイスが担当している。歴史を辿ると、1719年にリヒテンシュタイン家が神聖ローマ皇帝から領土の保持が認められ、その後神聖ローマが崩壊（1806年）するとともに独立した。一時ドイツ連邦に加わったこともあったが、連邦の解体により独立を取り戻して今日に至っている。ミニ国家ながら、他国に占領されるようなこと^がなかったのである。1867年から国是としている永世中立政策が功を奏していたのかもしれない。リヒテンシュタインは豊かな国と言われる。先ず王室がヨーロッパで有数の資産家といわれ、公国の支援は一切受けていない。また、モナコと同じくタックス・ヘイブンをとっている。このお蔭で法人数が人口より多くて法人税収入が高い割合を占め、国民には直接税（所得税等）が課せられていないということだ。今タックス・ヘイブンも揺れているが。

最後にアンドラだが、アンドラ公国は、ピレネー山中にあり、フランスとスペインに挟まれている。国土は金沢市位であり、人口は8万人弱の、ミニ国家である。実はアンドラは、フランス大統領とスペインのウィルヘルム司教を共同元首とする国家なのである。変わっているが、1993年に新憲法が制定され、この中で共同元首とすることが定められ、正式に独立国家としてスタートしたのである。これにはアンドラの国家起源とフランスとスペインとの間の長い歴史的経緯があつてこう落ち着いたとのこと。そしてアンドラの防衛はフランスとスペインに委託している。以上でミニ国家について終わりとしたい。

<会社近況>

9月に入りました。
残暑が続いており、毎日蒸し暑いですね。
事務所では冷たい飲み物の他に、一応ポットにお湯は沸かしておきますが、やはり誰も飲む人はいません。昼食時に社長がインスタントのお味噌汁を飲むくらいです。

そろそろ夏の疲れも出る頃かと思います。…お体、どうか大切に。

日も短くなり、公園の草むらにはバッタやおおろぎが顔を出す頃となりました。夜静かにしておりますと、リーンリーンと虫の音が聞こえてきます。季節は秋なんですね。

春には春の七草があるように、秋にも秋の七草がありますね。
「ハギ、キキョウ、クズ、ススキ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ」
秋の七草が咲きそろうこの時期、秋の気配を感じながらお散歩も楽しいものです。

この秋は、事務所内では夏物の片付け、古くなったカタログや書類などの片付け、そして秋のバーベキュー大会、などする予定です。
皆、仕事の合間に少しずつするので、慌ただしくなりそうですが、すっきりとして仕事しやすい環境が作れるかと思います。

★お知らせ★

9/19(月) 敬老の日
9/22(木) 秋分の日
お休みさせていただきます。

平成28年 9月5日発行
有限会社 幸田建設
<発行責任者>幸田久美
〒969-1204
本宮市糠沢字八幡1-1
電話、0243-44-3816

<後記>

秋分の日を過ぎればだんだんと夜の時間が長くなって、急速に秋めいてきますね。この夏は暑すぎて予定していたことが出来なかったのも、この秋の夜長は、大切に時間を使いたいと思います。

(事務員ト)